

風疹

風疹は、子どもに多い病気だと思いの方も多いのではないのでしょうか。

確かに、子どもに多く見られる症例ではありますが、最近では思春期や成人を迎えてから発症する方の割合が増えています。

テレビや新聞・インターネットのニュースにも取り上げられました。

病原体は風疹ウィルスです。約5年の周期で、晩冬から初夏に流行します。感染経路は咽頭分泌液の飛沫感染で、潜伏期間は2週間～3週間とされています。

特に、女性が妊娠期間の初期に感染すると、難聴や心疾患等、胎児に重度な先天性疾患のリスクが伴います。



【症状は？】

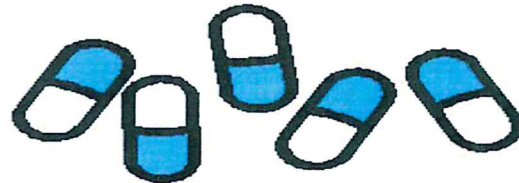
主な症状は、バラ色の丘疹（きゅうしん）・リンパ節の腫脹・発熱。発疹は顔や耳の後ろから全身に広がりますが、色素沈着や皮膚が剥けることはありません。発疹が出現する数日前から、首筋などのリンパが腫れますので、まず風疹を疑ってください。



【治療法は？】

風疹の診断は、「風疹抗HI抗体価」の測定にて行います。

標準的な治療例としては、発熱・関節炎に対する解熱鎮痛を行います。特異的な治療法がないため、対症療法（その時々症状を和らげる治療法）のみです。



【予防法】

風疹には、ワクチンがあります。

日本では、2006年にMR（風疹・麻疹）混合ワクチンが導入され、1歳と小学校入学前1年間の2度、定期接種として認められています。

妊婦さんのワクチン接種は禁忌ですが、検査にて抗体陰性となった女性には、妊娠前の予防接種が望まれます。また、接種から3ヶ月程度は、妊娠を避けることを強くお勧めします。

抗体をもたない女性が妊娠した場合、流行期は特に注意が必要で、定期的な検査を行い、経過観察を続ける必要があります。



風疹

風疹は子供に多い病気だと知られています。

中には、風疹は子供だけにかかるものだと思っている人もいるのではないのでしょうか。

確か子供に多い病気なのですが、最近では思春期や成人の占める割合が高まっています。

ニュースにもなっていましたよね？

病原体は風疹ウィルスです。約5年の周期で、晩冬から春、初夏に流行します。感染経路は鼻咽頭分泌液の飛沫感染で、潜伏期は14日～21日です。

感染可能期間は潜伏期の後半から発疹出現後5～7日間で感染力は麻疹（はしか）



より弱く、小児期に感染を免れ、成人で罹ることもあります。

妊娠初期に妊婦が感染すると、難聴などの先天異常の子供が生まれます。



症状は？

バラ紅色の丘疹（きゅうしん）、リンパ節の腫脹、微熱が主な症状です。発疹は、顔、耳の後ろから頭、体、手足へ広がります。発疹は癒合の傾向は少なく、色素沈着や皮は剥けません。

耳の後ろや首筋のリンパ節が発疹が出る前の数日前から腫れるので、発疹とリンパ節の腫れがあった場合は風疹だと思ってい

リンパ腺の腫れ



全身の発疹

治療法は？

風疹は、風疹HI抗体価の測定を採血にて行い、診断します。

標準的な治療例は、症状は軽く、すべてが対症療法です。

発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛→カロナール細粒
血小板減少性紫斑病→プレドニン錠 1日1～3錠



予防法？

予防法として風疹ワクチンの接種があります。

我が国では生後12～90ヶ月に男女問わず定期接種として実施されています。風疹抗体陰性の女性は積極的に予防接種を受けることが望まれます。

ただし、妊婦の風疹ワクチンは禁忌で、風疹ワクチン接種後2～3ヶ月は妊娠は避けることが望ましいでしょう。

風疹抗体陰性の女性が妊娠した場合、風疹流行期はとくに注意が必要で、抗体価検査を定期的に行い、経過観察を続ける必要があります。

ワクチン接種をして予防しましょう！！

